

5.8 施設キーワードの抽出

「道の駅」の施設の計画にあたり、キーワードの抽出を行い、施設コンセプトへとつなげることを検討します。ここでは、「道の駅」を整備予定の地域の名称である「箸蔵（はしくら）」を構成する、「はし」と「くら」という言葉から連想していきます。

はし くら

「はし」から連想するキーワード

- 箸 Chopsticks・・・飲食、食べること
- 橋 Bridge・・・人と人、人と物、物と物をつなぐ架け橋
- 端 Edge・・・市域の端に位置し、市内への玄関口

▶ 食や特産物の地域循環、まちの玄関口

「くら」から連想するキーワード

- 蔵 Treasury・・・大切なものをしまうところ
- 倉 Warehouse・・・いざというときのための備蓄
- 暮 Living・・・生活の場所

▶ 暮らしの中の大切な場所、防災

「蔵」と「倉」

倉：穀物を蓄えておく所。こめくら。一般に、物を納める建物。

蔵：大事なものをかくしてしまいこんでおくところ。

また、この「箸蔵」という名称の元となった箸蔵寺は、3章 3.4 でもふれたように、食べることで縁が深いお寺です。

箸蔵寺

箸蔵寺は、お大師さまが金毘羅大権現さまより「お箸を使うものを救いましょう」というお告げを受けてされた寺。この縁起にもつき赤ちゃんの健やかな成長を願う「お箸初めの箸」の授与及び、「お箸初めご祈祷」を行なっている。食べることで縁が深い寺。



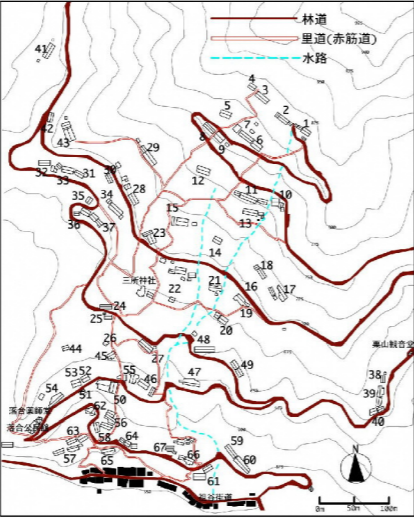
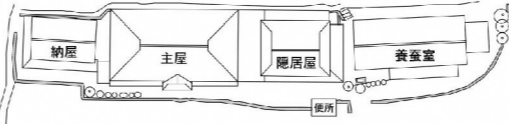
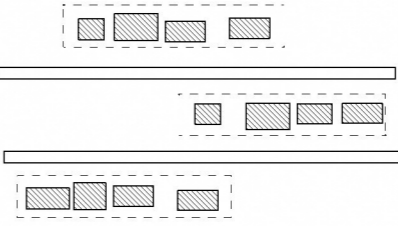
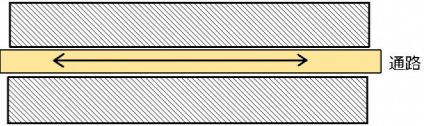
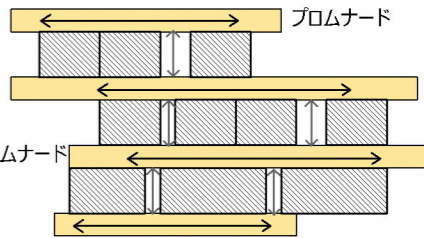
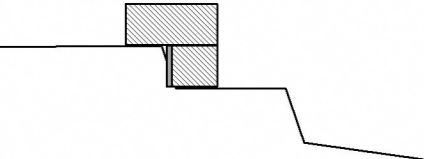

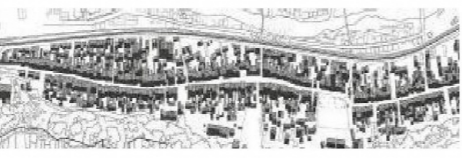
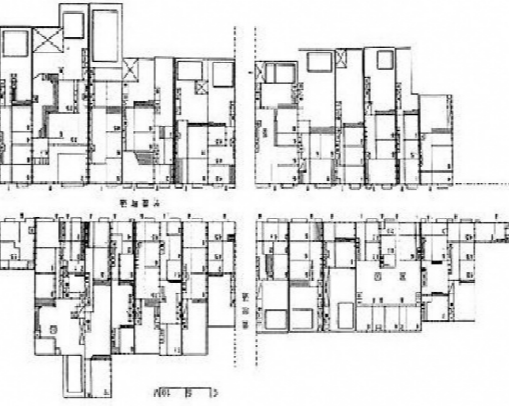
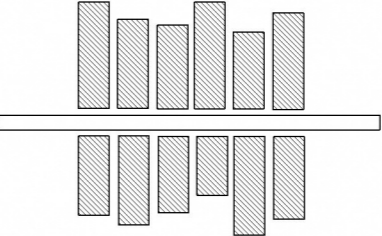
5.9 配置計画の検討

5.9.1 配置計画の考え方

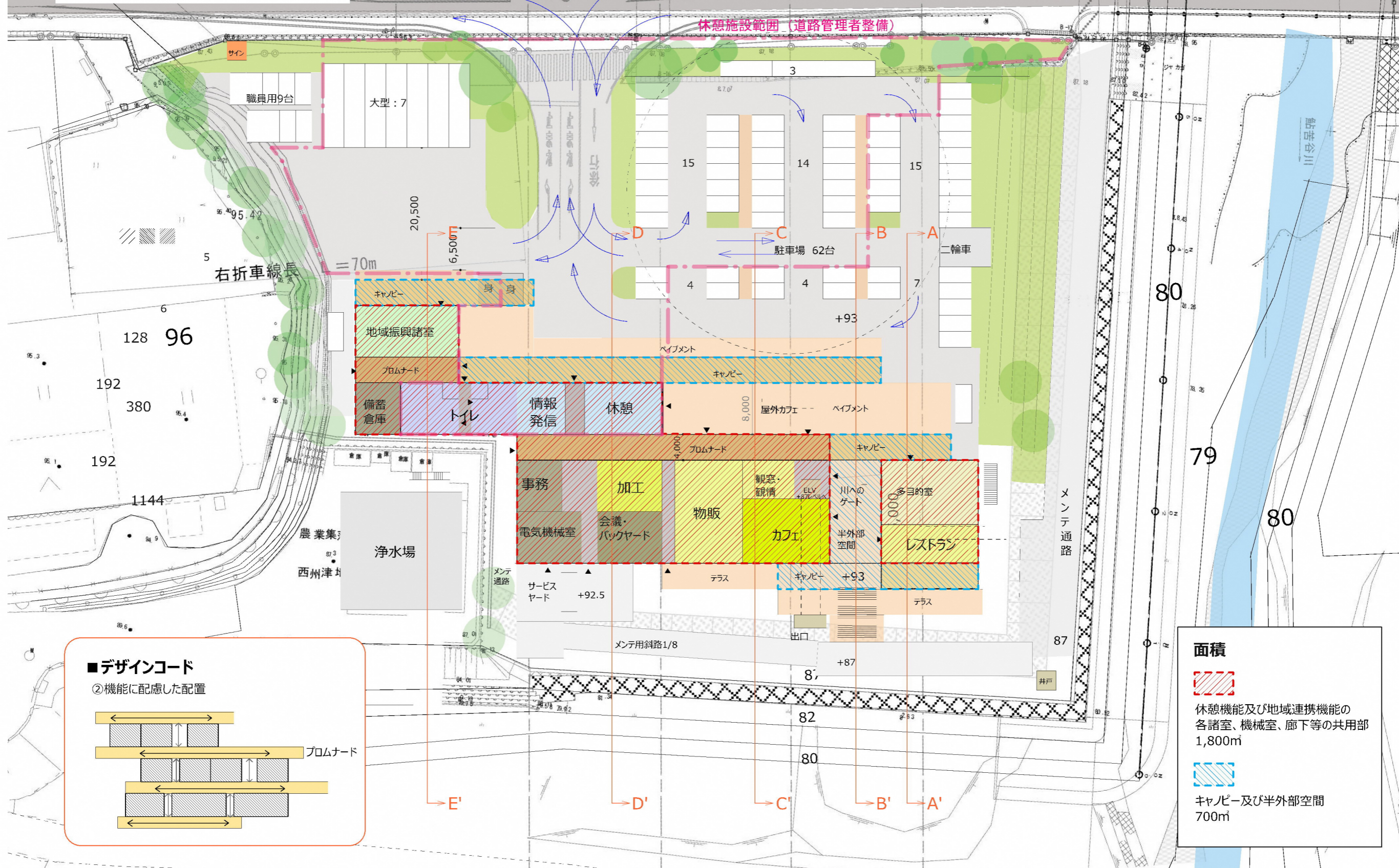
三好市市内の高低差は約1,900mもあり、三好の市街地（土地の低い所）「マチ」に住んでいる人たちは、大歩危・祖谷地方などを中心とする山間部（山の尾根伝いにできた集落）を「ソラ」と呼び、それぞれ独自の文化や生活を醸成してきました。

住居の成り立ちも「ソラ」と「マチ」それぞれに特徴があります。伝統建築からそれらの特徴を分析し、「道の駅」施設計画における配置検討のため、配置計画のデザインコードを策定します。

次項からは、抽出したデザインコードをもとに、配置計画案を検討します。配置計画案は、①2層案と、②平屋建てそれぞれについて検討を行い、5.10にて比較検討を行いました。

		住居の成り立ち分析				両者に共通のデザインコードを抽出
		イメージの抽出	集落配置図	住宅レベルの配置図	集落の模式配置	
山間部 (ソラ)	  祖谷落合集落	 等高線に沿った細長い住居	 祖谷の典型的な住居の例 それぞれの機能を分棟で配置している	 それぞれの住戸が緩やかに道に接続	三好市に存在する山間部と市街地の住居の特徴をそれぞれ併せ持つ建築の配置コードを抽出 ①基本形態：通路の両側に建物（部屋）を配置  ②機能に配慮した形態： 建物の管理に即して、機能を分離して通路を配置  各室をつなぐ通路は、幅員を広く取ることで、単に移動するだけの空間ではなく、多用途に利用できる「プロムナード」（散歩道、散策路）とします ③敷地の形状を生かした断面計画： 平地がない山間部では造成によって敷地を作り出す必要があります  階下の建物の壁を擁壁として有効利用	
	市街地 (マチ)	 出典：三好市教育委員会HP 街並み	 街道にへばりついた住戸	 それぞれの住戸が直接街路に接続		 密集型住居配置の例

5.9.2 配置計画 (案)
①-1 平屋案 平面図 S=1/600



■デザインコード
②機能に配慮した配置

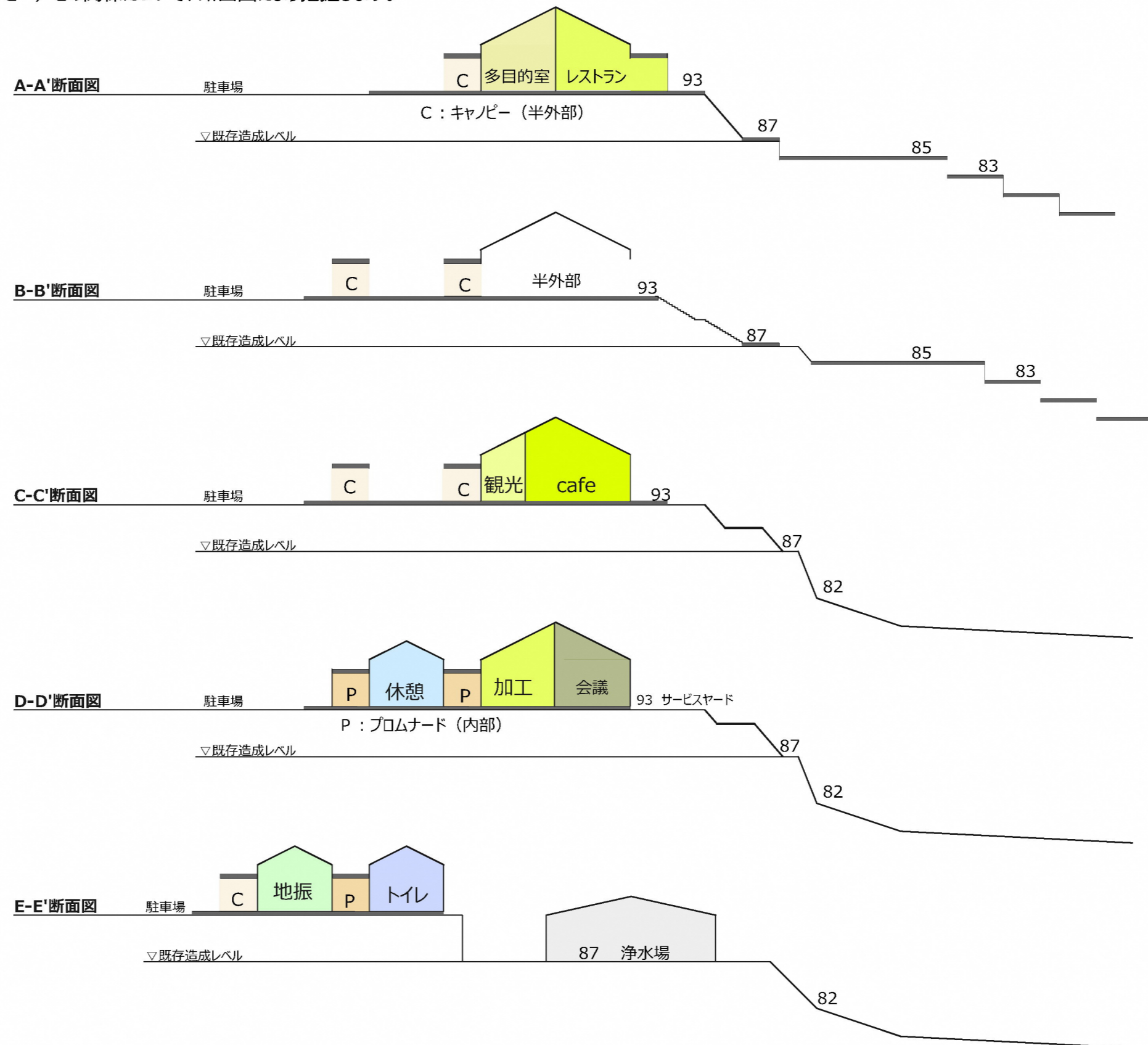
プロムナード

面積

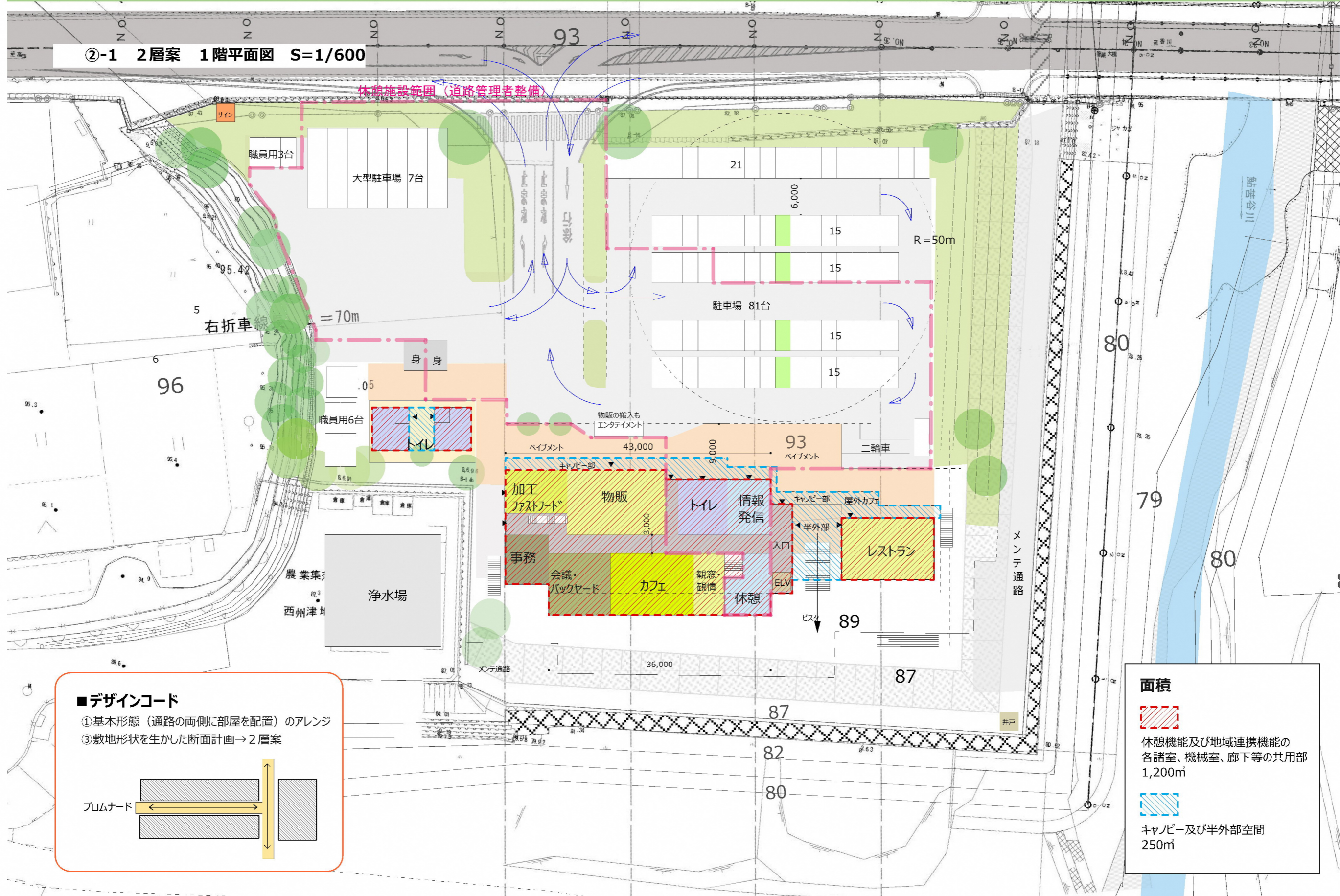
- 休憩機能及び地域連携機能の各諸室、機械室、廊下等の共用部 1,800㎡
- キャンピアー及び半外部空間 700㎡

①-2 平屋案 断面図 S=1/500

平屋案について、各室とプロムナード（キャンピー）との関係について、断面図により把握します。



②-1 2層案 1階平面図 S=1/600



■デザインコード

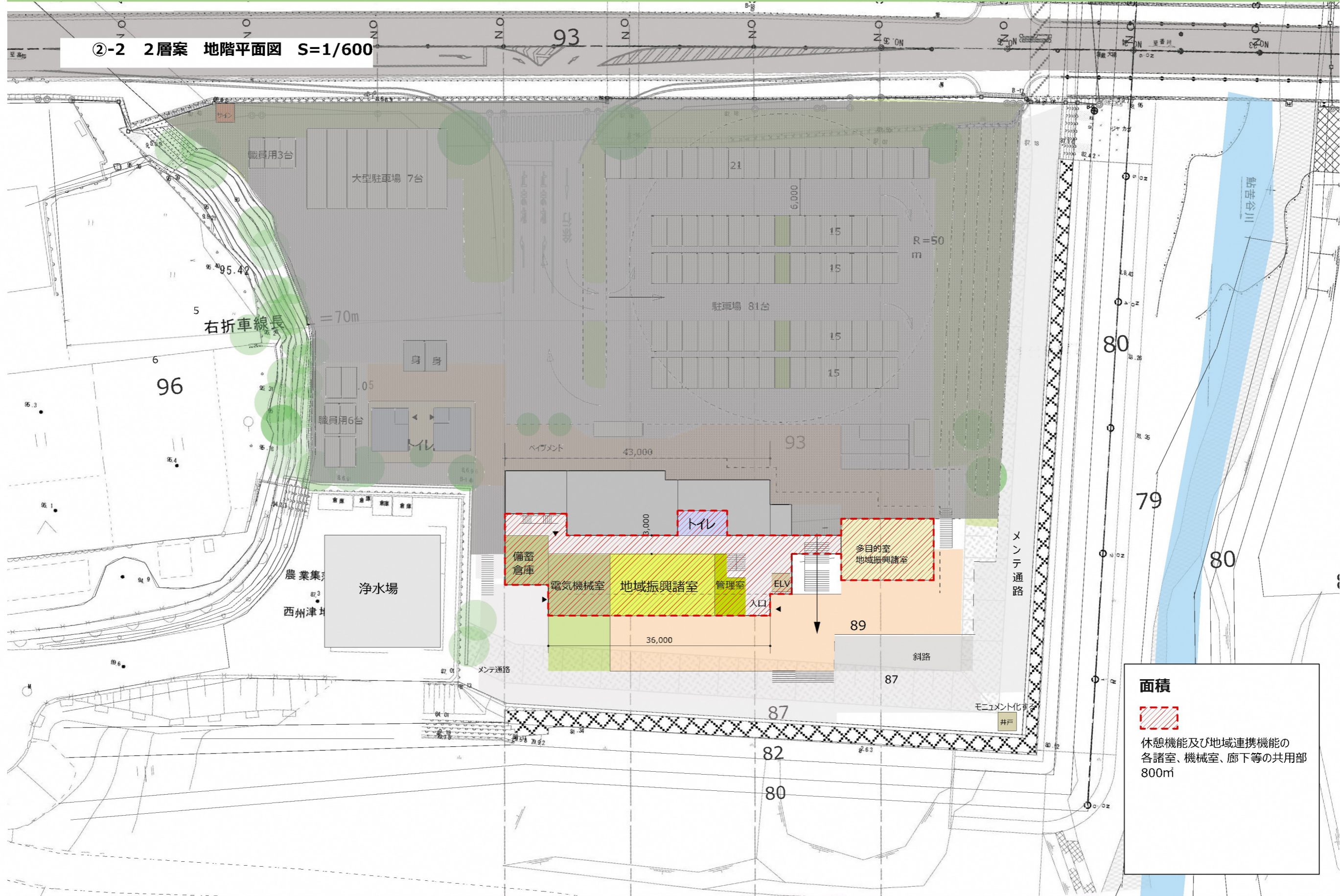
- ①基本形態 (通路の両側に部屋を配置) のアレンジ
- ③敷地形状を生かした断面計画→2層案

プロムナード


面積

- 休憩機能及び地域連携機能の各諸室、機械室、廊下等の共用部 1,200㎡
- キャビン及び半外部空間 250㎡

②-2 2層案 地階平面図 S=1/600



面積

 休憩機能及び地域連携機能の各諸室、機械室、廊下等の共用部 800㎡

5.10 建物階数による比較検討

項目		平屋案	2層案	備考
面積	延べ床面積	2,500㎡（プロムナード、半外部空間含む）	2,250㎡（1階面積＋地階面積）	
	建築面積	2,500㎡、2層案に比べるとコンパクトさに欠ける	1,450㎡ コンパクトな配置	
駐車場		62台（61台）＋7台（大型）＋2台（身障者用）	81台（61台）＋7台（大型）＋2台（身障者用）	※括弧書き台数は必要台数
		小型車と大型車の駐車場所を分離（バス対応を考慮） 建物に対して直交駐車。建物前方にメケを確保出来る	小型車と大型車の駐車場所を分離（バス対応を考慮） 建物に対して平行駐車、建物前方に閉塞感を生じる	
敷地造成との関係		建築面積が大きい分、駐車場面積確保のため建物を川側へ配置する必要がある そのため川側にはある程度の擁壁が必要となる	建築面積が小さい分、 駐車場面積は充分確保 できる 建物が擁壁兼ねるので川側はある程度省略することが出来る	
敷地造成エリアの既存浄水場との関係		建物の配置設定で浄水場の建物を隠す	建物の配置設定で浄水場の建物を隠す	
川との関係	縦動線	なし	地階があるのでエレベーターを設置	
	増水時の安全	すべての施設が新造成面93mレベルにあるので より安全	地階レベルを既存造成レベル（87）より2m上げ、89mとし安全を確保	
	川への景観	カフェ、レストランが川への眺望を確保	カフェ、レストラン、休憩コーナーがすべて川への眺望を確保	
建物で一旦、川を隠す、 川へ抜ける大きなゲート をつくり、川への眺望を確保すると同時に川と共に生きる地域性を表現 半外部空間を出てから階段で川へ下る「見せ場」をつくる		建物で一旦、川を隠す、 川へ抜ける大きなゲート をつくり、川への眺望を確保すると同時に川と共に生きる地域性を表現 半外部空間から階段で川へ下る「見せ場」をつくる		
プラン	管理の明快さ	プロムナードで休憩機能と地域連携機能のエリアを 明快に分離 休憩施設は駐車場に面する	休憩施設と地域連携施設のエリアを分離可能	
	プランの明快さ	プロムナードで各部門を明快に分離 プロムナード自体も 通路以上の用途が可能 となる幅を設定	施設配置がプロムナードを挟んで交錯する トイレが前面に出るので建物の顔づくりに工夫が必要	
	レストラン、カフェ	落ち着いた食事できるレストラン、カジュアルなカフェに分離	落ち着いた食事できるレストラン、カジュアルなカフェに分離	両者を分離するか、フードコートの両者をあわせて大きなスペースをとるか、要検討
プロムナード		建物内部の配置にわかりやすさをつくる仕組み	中央につくることで中廊下式の配置となり、わかりやすい仕組み	（平屋案） 屋根付き身障者駐車場をキャノピーに設置することで従来の「とってつけた」感ではなく、 統一した景観 をつくる事が出来る
屋外イベント		駐車場前面は歩道、奥は様々な屋根付きの半屋外キャノピーとの連用で 様々なイベントに適応が可能（12mの奥行き）	建物に付随したキャノピーとの連用で様々なイベントに適応が可能（9mの奥行き）	
コスト		建築面積が大きい分、地業工事がかさむ 建築面積が大きい分、屋根面積が増え工事費がかさむ 平屋のため、縦動線の必要がない	建築面積が小さい分、地業工事は合理的 建築面積が小さい分、屋根面積が抑えられ工事費がかからない 縦動線が必要ため、階段、エレベーター関連の工事費がかかる	既存造成部の地耐力、建物の重量（構造）がコストに大きく関係するため、地耐力検査が必要

5.11 建築デザインの検討

三好市をはじめ、にし阿波地域の風土の造形から要素を抽出し、建築デザインの検討を行います。

デザインエレメント

- 祖谷の伝統建築・構造物
 - かずら橋：テンション構造
 - 石垣の集落
 - 茅葺き、竹壁
- 池田・貞光・脇町に残るうだつのまち並み
 - 本瓦、漆喰、格子、うだつ（装飾と防火）
 - うだつの種類に注目：装飾2段、装飾1段、シンプル形状
 - 水平に延びる軒ライン
 - 連続する葺の波、重畳たる屋根
- 徳島の工芸
 - 藍染め
 - 木材
 - 竹
- 観光
 - ラフティング
 - 遊覧船

サステナブルデザイン

- 構法によるもの：「夏を旨とする」づくり
 - 日射
 - 通風
 - 断熱
- 自然エネルギーによるもの
 - 太陽光発電
 - 河川水からのヒートポンプ

防災

- 非常時に対する備え
 - 備蓄防災倉庫
 - 電源システム（非常電源、EV車からの電源確保システム）
 - 下水管直結マンホール（仮設トイレへの備え）等
- 既存地盤から建物設置レベルを上げる

建築デザイン 2つの方向性

1) Traditional バージョン

伝統形態の踏襲による空間：勾配屋根、うだつ

2) Innovative バージョン

伝統形態の新しい解釈による空間：フラットルーフ、「うだつ」の形態のアレンジ



池田のうだつ 妻側の袖壁を桁まで延ばし、庇と一体にしたシンプルで実質的な「うだつ」が多く見受けられます



脇町のうだつ 妻側の袖壁を桁まで延ばさずに小屋根を付けた形式の「うだつ」が多く見受けられます



景観資源について

シンプルで住戸を囲うような「うだつ」形式

- ・連続する水平ライン
- ・連続する低い軒
- ・瓦による屋根勾配は素材による形態規定の景観をつくり出す
- ・防火を意識した漆喰の外壁は素材規定の景観をつくり出す
- ・内部と外部を柔らかく仕切る「格子」による

斜面地の石積みによる景観

- ・同じ等高線上に並ぶ住居：群として水平に配置される住居



貞光のうだつ 2段の小屋根を付けた装飾的な「うだつ」が多く見受けられます



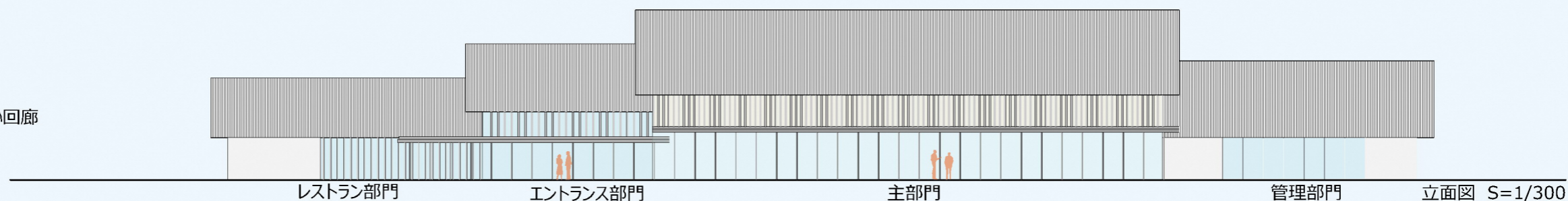
祖谷の伝建地区 斜面の谷側に石積みをつくり敷地を確保し、萱葺きの住居をついた集落。畑は石積みで平坦地をつくり、山上まで続く独特な景観をつくり出しています

5.12 立面計画による検討

建築デザインの検討から考えられる、2つの方向性について、立面計画案を作成し検討します。

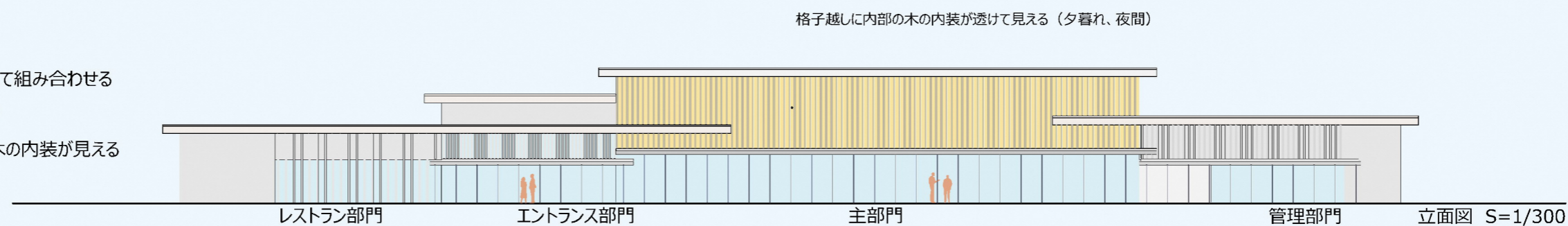
1) Traditional バージョン

- 勾配屋根、濃灰色基調
- 格子
- 木造架構
- 水平基調をつくる軒の低い回廊



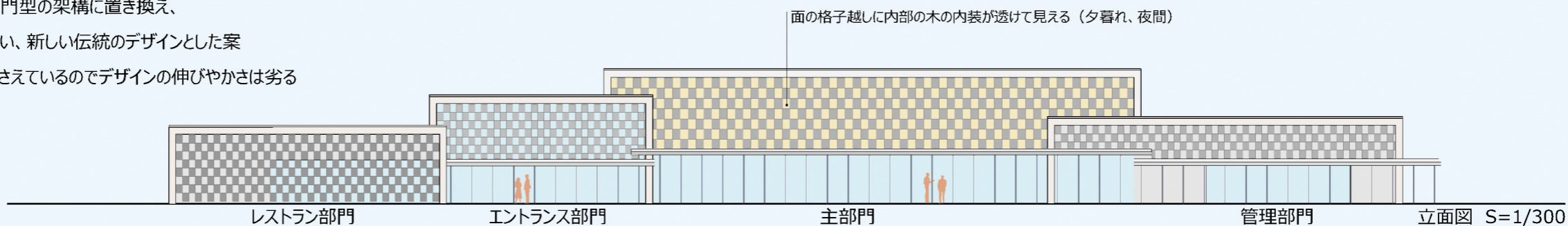
2)-1 Innovative バージョン①

- フラットルーフ、白色基調
- 大きさ、ピッチを変えた格子
- 鉄骨架構
- 内装に木を使用
- 水平基調の屋根をレベルを変えて組み合わせる
- 水平基調をつくる軒の低い回廊
- 主部門は高い天井、外部から木の内装が見える

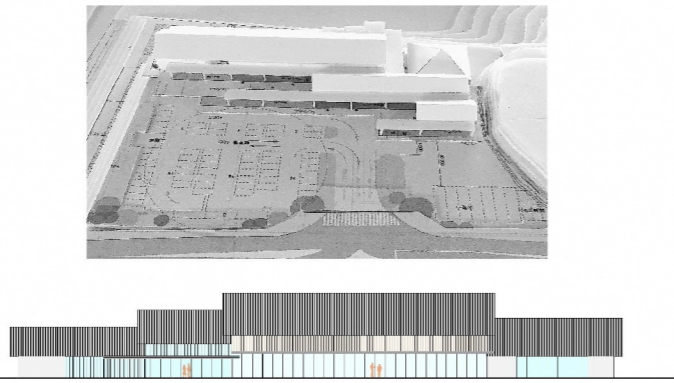
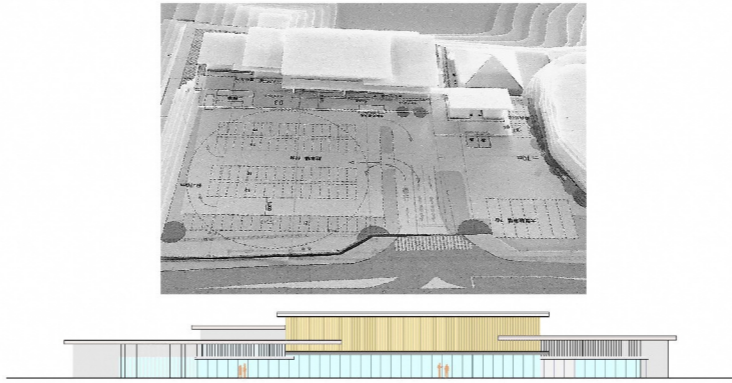
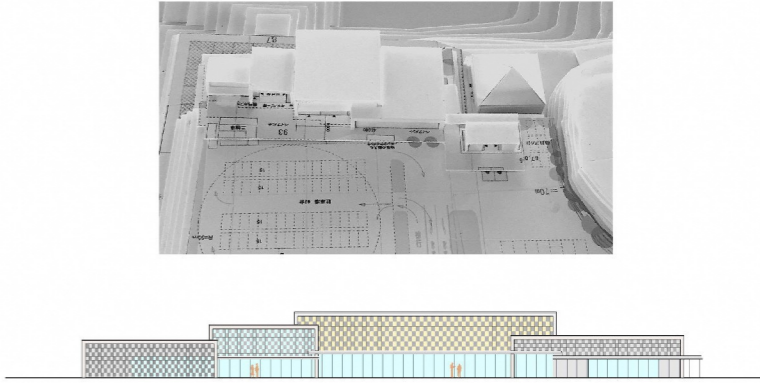
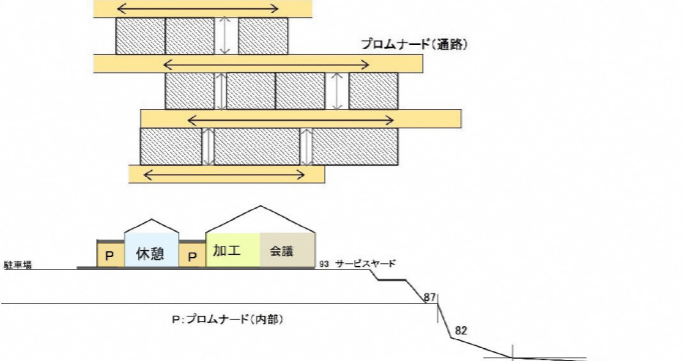
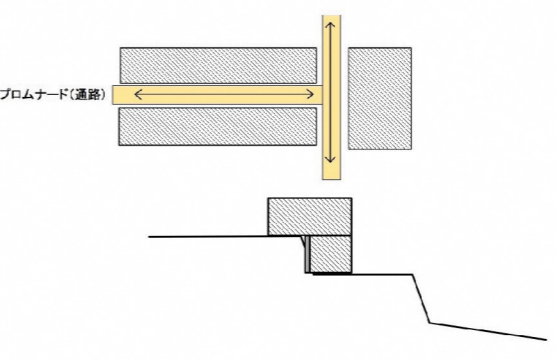


2)-2 Innovative バージョン②

- フラットルーフ、白色基調
- 三好に多いシンプルな「うだつ」を門型の架構に置き換え、
- 面の構成とした格子を全面に用い、新しい伝統のデザインとした案
- ①案と比べると妻部分を壁で押さえているのでデザインの伸びやかさは劣る



5.13 立面計画と階数の違いによる建物デザインの検討

検討案 インデックス	A 平屋案 勾配屋根	B 2層案	
		B-1 フラットルーフ	B-2 ゲート型
1 Traditional バージョン 伝統形態の踏襲による空間 ・勾配屋根 ・濃灰色基調			
2 Innovative バージョン 伝統形態の新しい解釈による空間 ・フラットルーフ ・白色基調			
3 Innovative バージョン 伝統形態の新しい解釈による空間2 ・フラットルーフ ・ゲート状空間 ・白色基調			
デザインコード (プランダイアグラム) 模式断面			

5.13.1 模型による検討 A案：平屋／勾配屋根 (Traditionalバージョン)

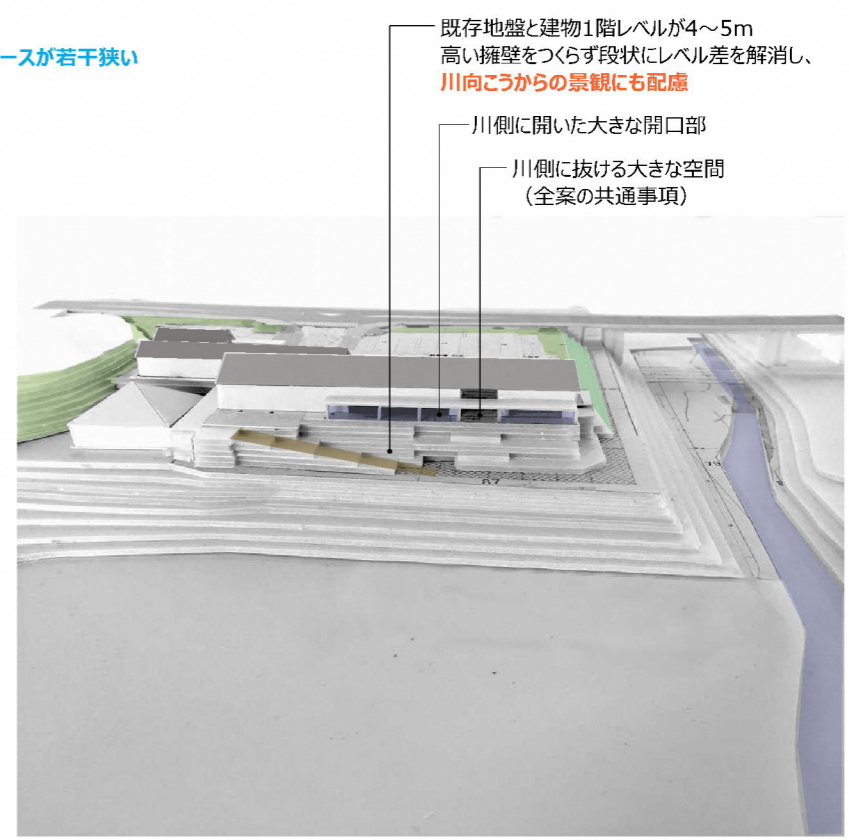
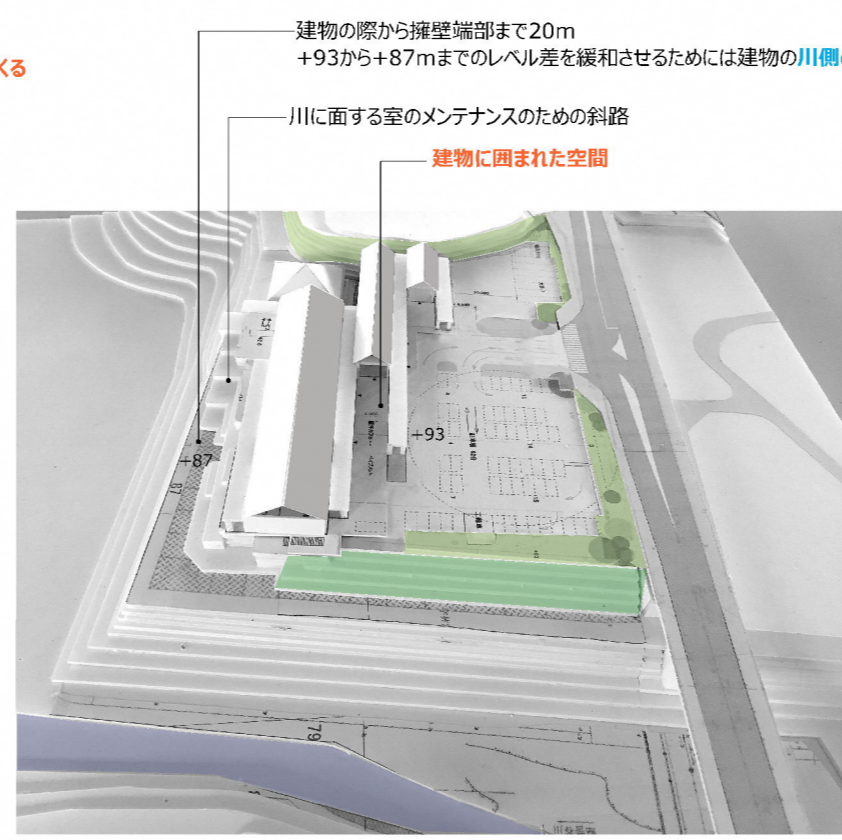
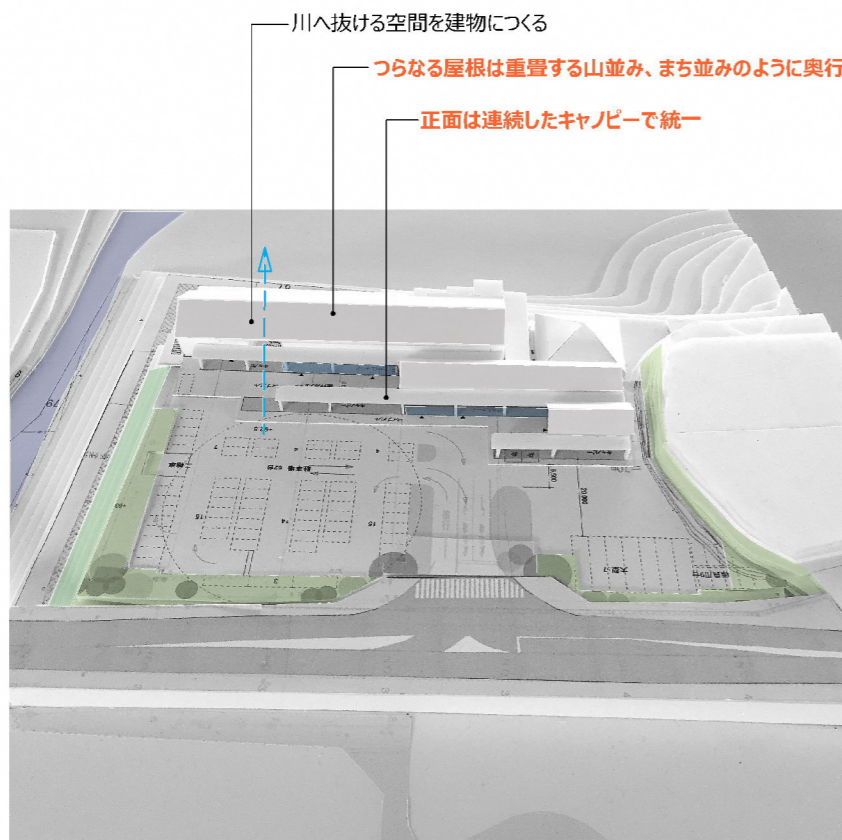
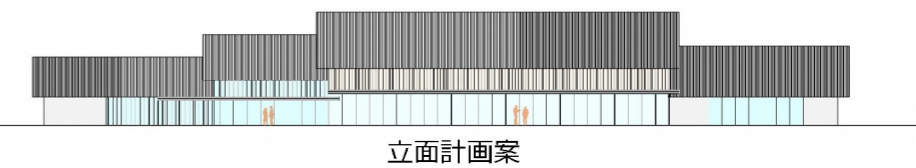
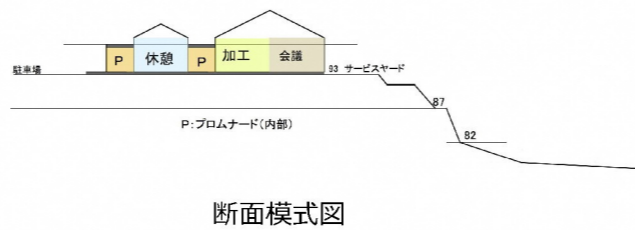
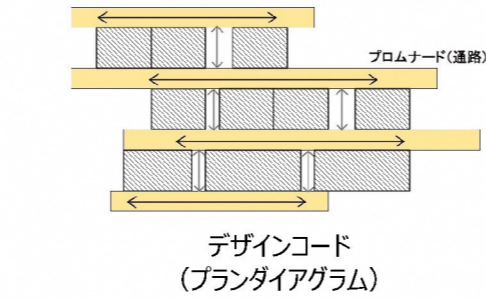
プロムナードで各部門を明快に分離

プロムナード自体も通路以上の用途が可能となる幅を設定

プロムナードを陸屋根とし、それに挟まれた機能空間を勾配屋根とした案

屋根の高さ、ボリュームに差異をつくることで、まち並みをつくることできる

プロムナードを耐火建築とすることでそれ自体が防火区画（うだつ）の役割をする



5.13.2 模型による検討 B-1案：2層/フラットルーフ (Innovative バージョン)

施設配置がプロムナードを挟んで交錯する
 トイレが前面に出るので建物の顔づくりに工夫が必要

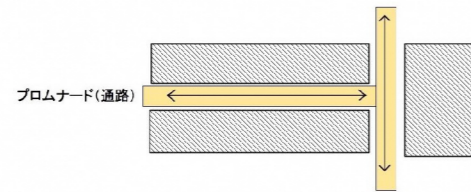
内部空間に高さの違ういくつかのボックス状のブロックに分け、そこに屋根を架け、
 特徴ある空間をつくる



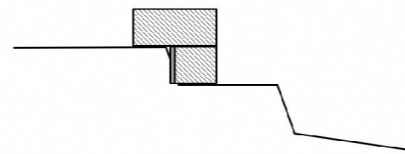
1階

地階

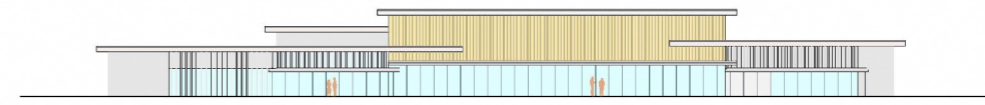
平面計画案



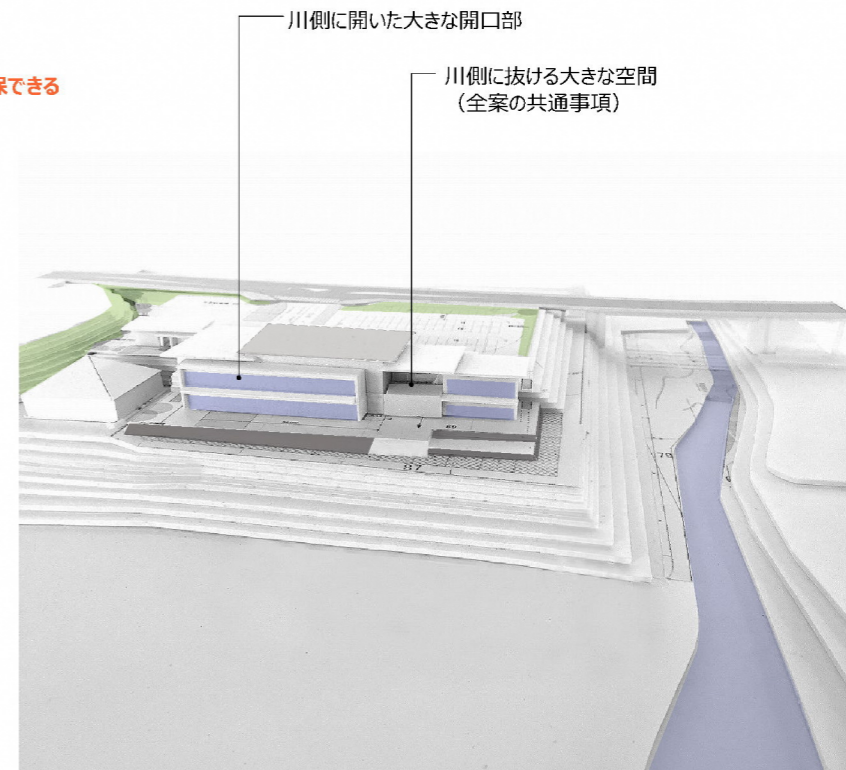
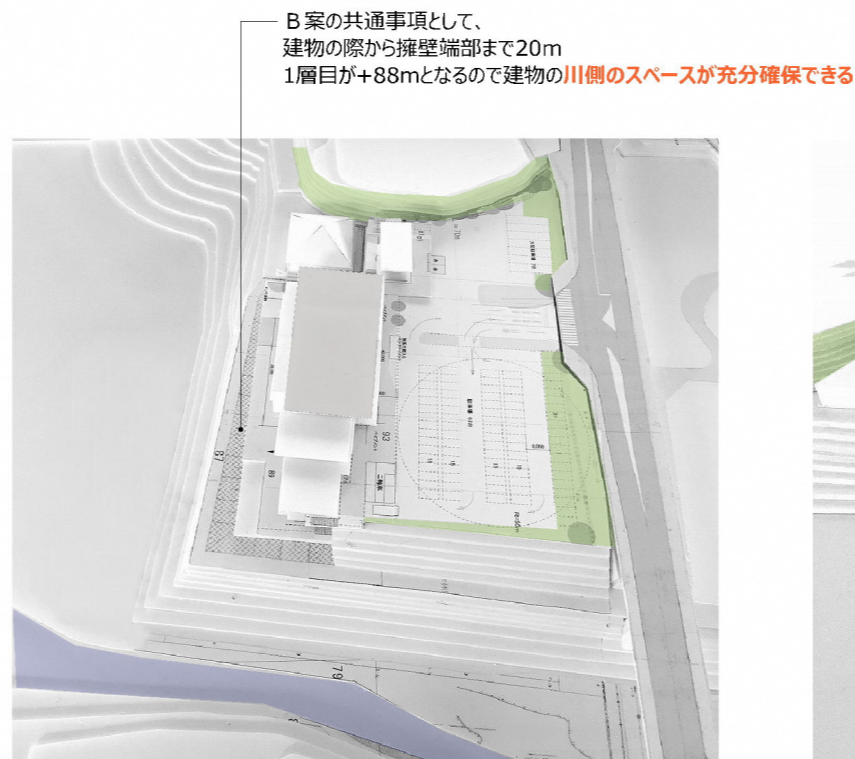
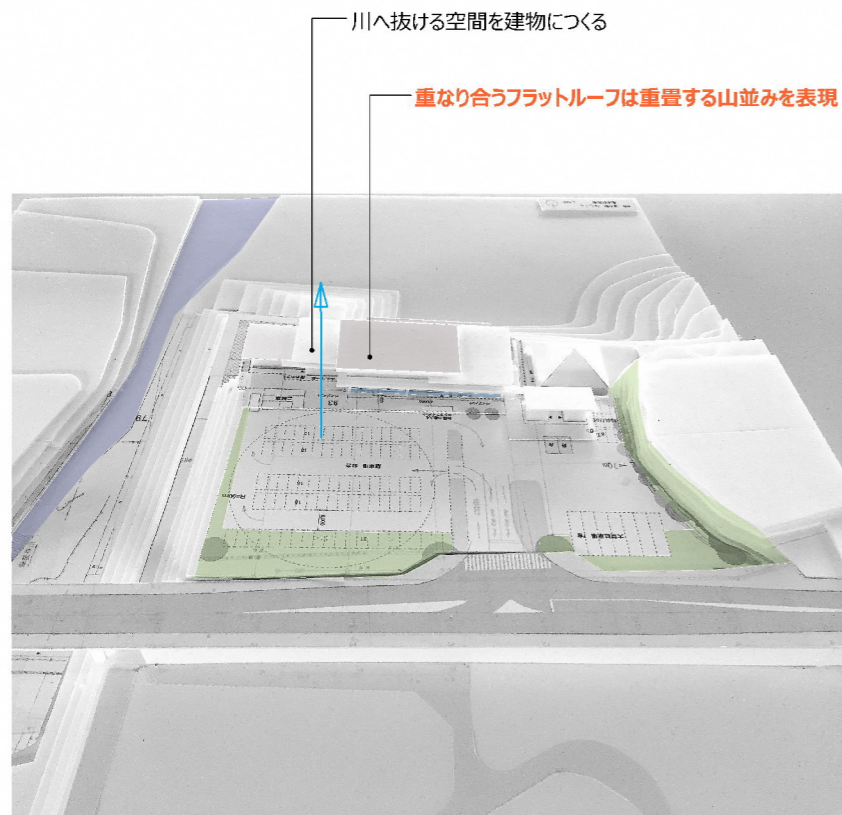
デザインコード
 (プランダイアグラム)



断面模式図



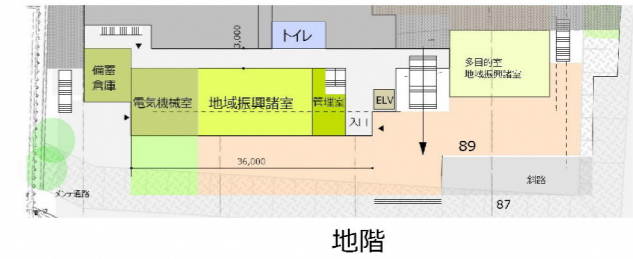
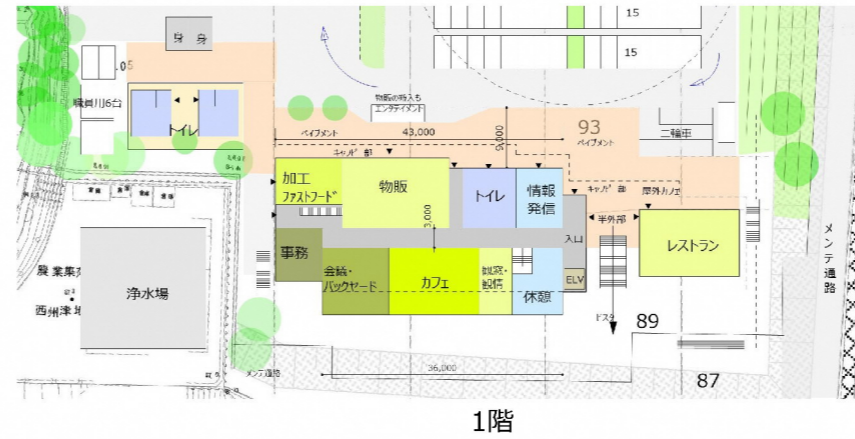
立面計画案



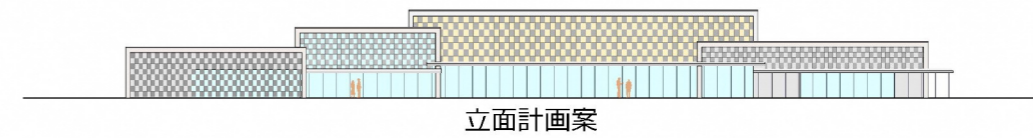
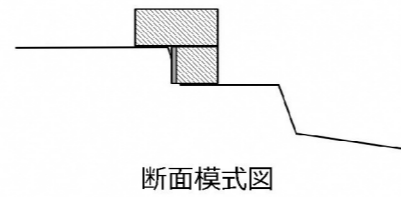
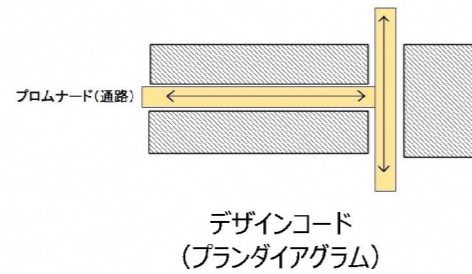
5.13.3 模型による検討 B-2案：2層/フラットルーフ/ゲート型 (Innovative バージョン)

施設配置がプロムナードを挟んで交錯する
 トイレが前面に出るので建物の顔つくり工夫が必要

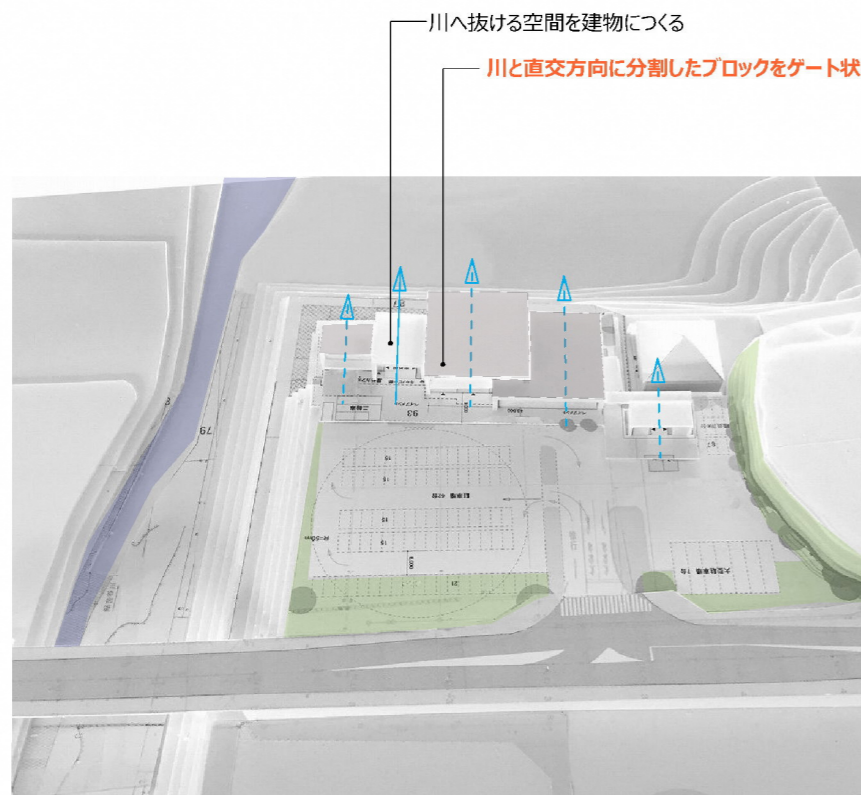
川に対して空間を直交方向にいくつか分割し、ゲート状の架構で空間を組み立てる
 ゲート状の空間はその仕切りが「うだつ」のメタファとしての表現となる (防火区画)



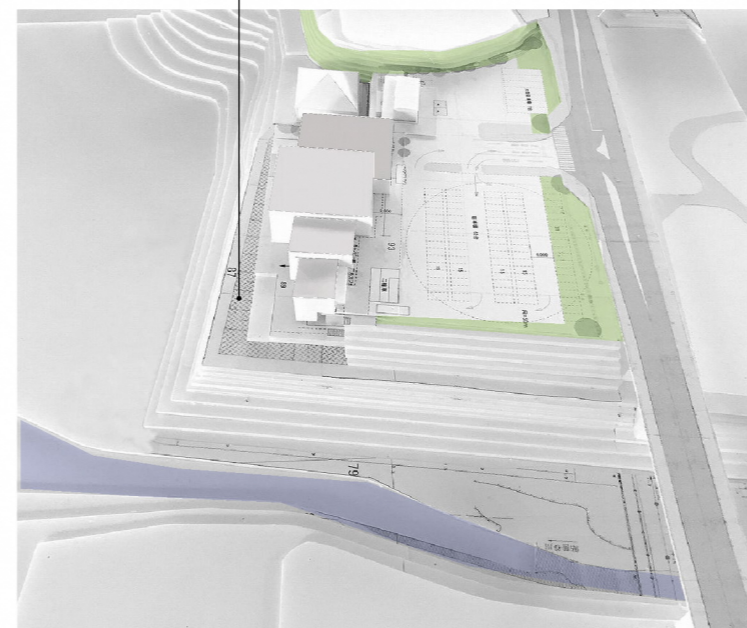
平面計画案



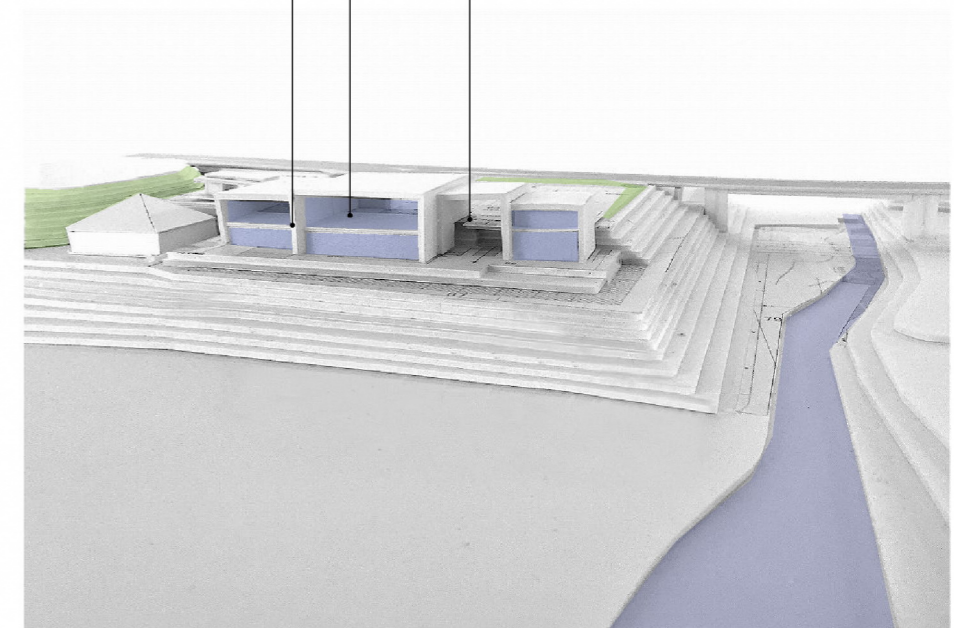
立面計画案



川へ抜ける空間を建物につくる
川と直交方向に分割したブロックをゲート状の架構で空間を組み立てる



B案の共通事項として、
 建物の際から擁壁端部まで20m
 1層目が+88mとなるので建物の**川側のスペースが充分確保できる**



各ブロックが独立した雰囲気をつくる
 壁が各ブロックの区画 (防火区画) の役割 (うだつ) をする
 川側に開いた大きな開口部
 川側に抜ける大きな空間 (全案の共通事項)

5.14 施設計画の方向性

以上、施設計画にあたり、キーワードを抽出し、配置計画としてデザインコードを導き出し、2層案と平屋案の検討、建築デザインの検討から2つの方向性として、「Traditionalバージョン」と「Innovativeバージョン」の立面計画案を作成、そして立面計画と階数の組み合わせによる検討を行いました。これらの検討をもとに、施設計画の方向性を導き出します。

キーワードの抽出

- 箸 橋 端 ▶ 食や特産物の地域循環、まちの玄関口
- 蔵 倉 暮 ▶ 暮らしの中の大切な場所、防災

配置計画の検討

平屋案

- ・プロムナードにより、機能配置が柔軟に計画できる
- ・プロムナードにより、休憩機能と地域連携機能の景観が統一できる
- ・プロムナードを多用途に利用できる
- ・すべてを地上レベルに配置できる
- ・縦動線が発生しない

2層案

- ・コンパクトな配置
- ・駐車場、外構に余裕ができる
- ・建築が擁壁を兼ねられる
- ・機能を2層に分けて配置できる
- ・縦動線が発生する

建築デザインの検討

Traditionalバージョン

- ・伝統形態の踏襲
- ・勾配屋根
- ・灰色、木基調

Innovativeバージョン

- ・伝統形態の新しい解釈
- ・フラットルーフ
- ・白色基調

落ち着いた印象

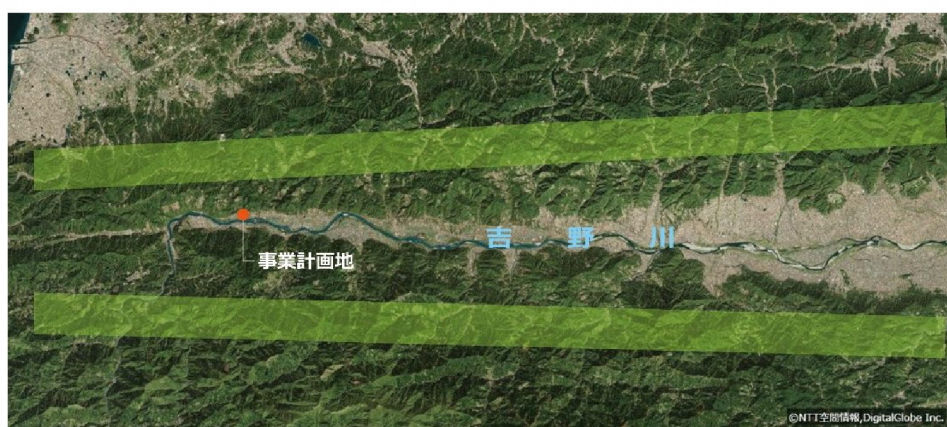
モダンな印象

「道の駅」は特性上、様々な機能を持っていますが、時代の流れによって社会的要求は変化することが想定されます。また、今後基本設計、実施設計を行うとともに、管理運営者の選定が必要になりますが、管理運営者によって、地域連携機能における導入機能が異なってくるため、その機能を十分に発揮できる配置計画を行うことが課題になります。

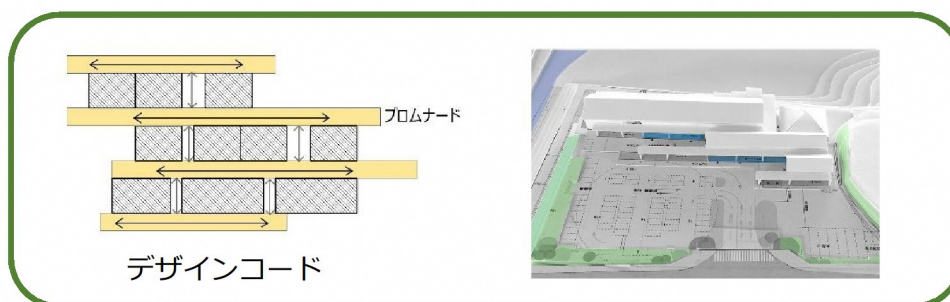
基本計画段階において、このように導入機能が未定かつ、将来的な変化が想定される事に対し、プロムナードで各室をつなぐシステムは、導入機能の変化にフレキシブルに対応でき、またプロムナードやキャパピーが様々なアクティビティに対応できる空間として有効であることから、**配置計画としては平屋案を採用する方向で検討**します。

また、事業計画地は吉野川が作り出した徳島平野の上流部に位置しており、山並みが敷地の南北に川と並行して連なっています。この景観と平屋案の勾配屋根が並行する形状が呼応し、この地域の景観を象徴するとともに、調和した景観をつくり出すことができます。よって**建築デザインとしては勾配屋根による Traditional バージョンを採用する方向で検討**します。

活断層である中央構造線については、これまでの調査結果によると、敷地の北側、箸蔵小学校の周辺あたりを走っていることがわかっています。事業計画地の直下ではありませんが、安心して利用できる安全な施設とします。



呼応する形状
調和する景観



- ・平屋案
- ・勾配屋根 Traditional バージョン



A 案

施設計画の方向性として採用

5.15 概算事業費

施設整備にかかる概算事業費は以下の通りを想定します。比較するため、平屋案の A 案と 2 層案の B 案について算出しました。

なお、概算事業費は、社会情勢や財政状況の変化により見直しを行う場合があります。

	A 案 (平屋案)	B 案 (2 層案)
延床面積 (㎡)	約 2,500 (※1)	約 2,250 (※2)
階数	1	2
建築 (千円)	1,080,000	1,135,000
単価 (円) (※3)	430,000/㎡ 1,420,000/坪	480,000/㎡ 1,600,000/坪
外構 (千円)	227,000	242,000
計 (千円)	1,307,000	1,377,000

(消費税別)

- ※1 休憩機能及び地域連携機能の各諸室、機械室、廊下等の共用部を合計した面積 1,800 ㎡と、キャノピー及び半外部空間の面積 700 ㎡の合計面積 (P.71 参照)
- ※2 1 階の休憩機能及び地域連携機能の各諸室、廊下等の共用部を合計した面積 1,200 ㎡と、キャノピー及び半外部空間の面積 250 ㎡の合計面積 1,450 ㎡ (P.73 参照) に、地階の地域連携機能の各諸室、機械室、廊下等の共用部を合計した面積 800 ㎡ (P.74 参照) を加えた面積
- ※3 単価は建築費を延床面積で割り戻した参考金額とする

概算事業費

5.16 財政支援制度

現時点において活用可能と考えられる主な財政支援制度は以下のとおりです。本施設の整備の具体的な内容が決まった時点で要件の適用等を確認し、どの支援制度を活用するか検討を行う必要があります。

省庁	名称	概要	補助率
農林水産省	農村漁村振興交付金	地域の創意工夫による活動の計画づくりから農業者等を含む地域住民の就業の場の確保、農山漁村における所得の向上や雇用の増大に結び付ける取組みまでを総合的に支援し、農山漁村の活性化、自立及び維持発展を推進する。	総事業費のうち、8億円まで（国費として4億円まで）
農林水産省	食料産業・6次産業化交付金	農山漁村の所得や雇用の増大を図るため、地域の創意工夫を生かしながら、多様な事業者がネットワークを構築して取組む加工・直売（新商品開発や販路開拓、農林水産物の加工・販売施設の整備等）の取組み及び市町村の6次産業化等に関する戦略に沿って行う地域ぐるみの6次産業化の取組みを支援する。	3/10 以内（中山間地（農業）、市町村戦略に基づく取組みは 1/2 以内）
経済産業省	次世代自動車充電インフラ整備促進事業	電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）に必要な充電インフラの整備を加速することにより、次世代自動車の更なる普及を促進し、運輸部門における二酸化炭素の排出抑制や石油依存度の低減を図る。	定額
経済産業省	ふるさと名物応援事業	地域経済の活性化および地域中小企業の振興のため、地域資源を活用した新商品・新サービスの開発や販路開拓に意欲的に取組む中小企業等を支援する。	1/2 以内 上限 500 万円
国土交通省	社会資本整備総合交付金	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組みを支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を目的とする。	全体事業費の 2 割 目途
国土交通省	防災安全交付金	地域住民の命と暮らしを守る総合的な老朽化対策や、事前防災・減災対策の取組み、地域における総合的な生活空間の安全確保の取組みを集中的に支援する。	全体事業費の 2 割 目途

省庁	名称	概要	補助率
観光庁	旅行環境整備事業	「観光先進国」の実現に向けて、ストレスフリーで快適に旅行できる環境の整備を図るため、「交通サービス旅行環境整備支援事業」「地方での消費拡大に向けた旅行環境整備支援事業」を対象として補助金の交付を行うことにより、全ての旅行者の旅行環境整備を行うための対策を促進することを目的とする。	1/3
環境省	二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金	エネルギー起源二酸化炭素の排出の抑制のための事業であり、地方公共団体が行う地球温暖化対策事業に対し、必要な経費を国が補助することにより、地方公共団体による地球温暖化対策の強化と速やかな普及を図ることを目的とする。	定額
総務省	地域経済循環創造事業交付金	産学官の連携により、地域の資源と資金を活用して、雇用吸収力の大きい地域密着型企業の立ち上げを支援する。	原則 1/2 上限 2,500 万円